

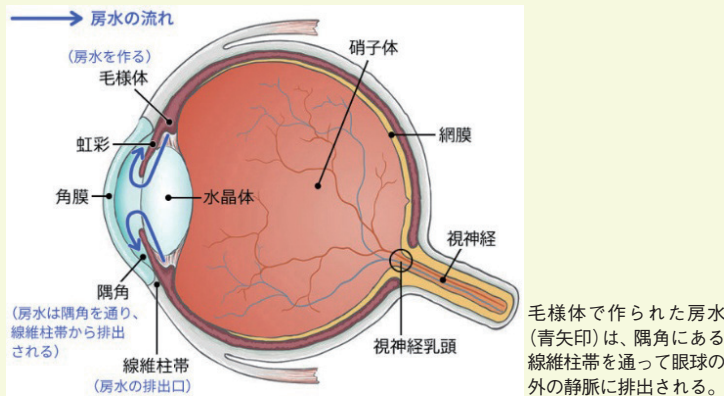
白内障との同時手術で、点眼薬治療をサポート 初期の緑内障手術として注目 目に負担の少ない「アイステント手術」

日本人の中途失明原因のトップ、緑内障。最近は、軽度から中等度の緑内障向けの、目に負担の少ない手術も登場。その一つ、白内障手術と同時にアイステント手術を紹介する。

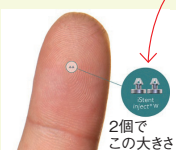
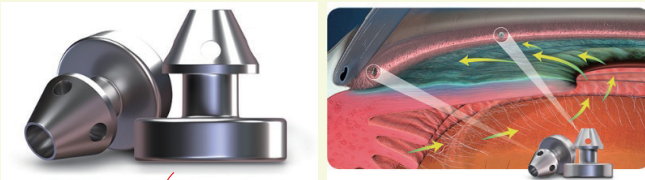
緑内障による視野の消失



視野が欠けていっても、両目で見ると異常に気づかないことがほとんどだという。



2019年に承認されたアイステント



左が2019年に承認された「アイステント インジェクト ダブルビュー」。アイステントの筒の中を房水が通り、眼圧が下がる効果が期待できる(右上)。新型ステントの大きさは0.36mmほど。アイステントの耐久性に関するデータはないが、「生体適合性の高い材質であり、長期間の留置でも問題ないと考えられる」(Glaukos社)という。(画像3点提供/Glaukos社)

アイステント手術のポイント

- 傷口が小さく目への負担が少ない
- 緑内障の初期～中期が適応
- 点眼薬を減らせる可能性
- 手術できる医師が限られる
- 白内障との同時手術でない保険適用外



東京女子医科大学
東医療センター眼科教授
須藤史子さん

1988年東京女子医科大学卒業。92年同大学院修了(医学博士取得)。米国クリーブランドクリニック コール眼研究所留学などを経て、2016年より東京女子医科大学東医療センター眼科教授。

緑内障とは、なんらかの原因で視神経が障害され、それにより、視野が欠ける病気。進行を抑制するには、眼球内部の圧力(眼圧)を下げる必要がある。そのため、眼球の内部を満たす房水の流れを調整する。

治療は眼圧を下げる点眼薬が中心であり、第一選択。1剤で済む人もいれば、2剤、3剤を組み合わせる場合も。点眼薬だけでは症状が悪化した場合、点眼薬の負担を減らしたい場合には手術となる。これまで房水の排出路である線維柱帯の一部を切り取り、別の排出路を形成す

る手術(濾過手術)が実施されてきた。眼圧を下げる効果は高いが、眼球の切開範囲が大きく縫合も必要だ。

そこで近年、傷口が小さく患者の目への負担が小さい緑内障手術(低侵襲緑内障手術)が出てきた。さらに、より患者の負担が小さく、極低侵襲緑内障手術ともいえるのがiStent(アイステント)と呼ばれるチタン製の極小の管を使った手術だ。2016年に承認された手術で、長さ1mmのL字形のステントを線維柱帯に1個埋め込むことで房水の排出を促す。東京女

子医科大学東医療センター眼科教授の須藤史子さんは「これまでの研究で、点眼薬1剤分程度の眼圧を下げる効果があることがわかりました」と評価する。

そして2019年10月には、より小さな新型のステントを線維柱帯に2個挿入する手術方式が厚生労働省に承認された。排出路が2つになるため、効率的に眼圧を下げられる。「旧型のアイステントより有効性が高いとの報告もあります」と須藤さん。

ただ、製品や治療方法に関する講習を受け、一定の経験と技術が認められた医師しか施術で

きない。また白内障の手術と同時にに行わないと保険適用にならない。アイステントは白内障手術(眼内レンズによる水晶体再建術)のときに行うことで、目の加齢性疾患に一度に対処できる医療として開発されている。

費用は自己負担3割の場合、白内障手術込みで1眼約10万円。須藤さんは「既に白内障手術を受けたことのある患者さんには行えません。同時手術を受けるには行えません。同時手術を受けるのは『人生でワンチャンス』。白内障手術を受けるときに、アイステント治療に知識のある眼科医に相談を」と語る。

*この条件を満たしアイステントを使用している施設はGlaukos社のホームページ(<https://www.glaukos.com/ja/>)で確認することができる。